

やまばと通信

多摩市立図書館 情報誌 186号

関戸在住・栗田真吾さん作。日の暮れが早まり、寂しさを感じつつも読書にはうってつけの季節です。今号は書評欄を拡大し、図書館職員お薦めの1冊を「紹介」しています。秋の夜長にいかがでしょうか？



心が実る 本と出会おう！

～主な記事～
p.1 「読書週間 IN 国民読書年」
p.2 「読書週間 IN 国民読書年」
p.3 「図書館職員がお薦めする『1冊』」

p.4 「オンライン・データベース
利用講座」開催報告」
「ブックカバー作りませんか」
「手さげ袋のご寄贈
ありがとうございました」

「オンライン・データベース利用講座」を 開催しました

184号のやまばと通信でお知らせしました、「オンライン・データベース利用講座」を、7月の4日間、永山図書館で開催しました。

これは、各図書館にあるインターネット用端末を使って、過去の新聞記事や事典類を検索できる、「オンライン・データベース」を皆様の調べものに活用していただくために、基本的な操作や検索方法を知っていただくとうと企画したものです。全8回の講座で、延べ59人の方にご参加いただきました。

講座終了後にご記入いただいたアンケートでは、「図書館でオンライン・データベースを使えることを知らなかった」「操作方法がわからなかった」という方が多く、今後皆様に広くお使いいただく為に、効果的なPRと操作方法のレクチャーが必要であるという認識を得ました。

また、「今後、オンライン・データベースを利用したい」とのご意見もいただき、今回の講座をおおむね好評に受けとめていただいたようです。

お寄せいただいたご意見をこれからの講座に活かし、より良い内容にして行きたいと考えています。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



『データベース利用講座』のひとつコマ。限られた時間でしたが、参加された多くの方が講師の説明に熱心に耳を傾け、また自ら検索に挑戦されていました。

「手作り」してみませんか あなただけの「ブックカバー」を

関戸図書館では市民の方より手作りのブックカバーの寄贈をいただき、皆様にお持ちいただいています。（「やまばと通信183号」で紹介。）

現在も引き続き寄贈いただいておりますが、ご寄贈者と一緒にブックカバーをつくってみませんか？プレゼントにも最適です。

【日時】12月7日（火）午前10時～12時
【会場】関戸図書館・活動室
（詳しくは11月以降に図書館内のポスター・ちらしをご覧ください。）

2010 国民読書年

読書週間

IN 国民読書年！

今年も秋の読書週間を迎え、国民読書年もいよいよクライマックスを迎えます。実はこの国民読書年の立ち上げに、多摩市長の阿部裕行市長が関わっていたとの事で、お話を伺ってきました。

「テレビやインターネット等による情報が溢れる中、本や新聞を読まない子供が増え、また出版点数が減少し続けていることに危機感を持っていました。」

国民読書年は、新聞・出版界や医療、教育などの各業界と学校・図書館などが「活字離れ」を食い止めようと、それぞれの仕事の領域を越えて進めて来たものです。私も日本新聞協会の総務部長として、運動の母体となる文字活字文化推進機構の立ち上げに尽力しました。二〇〇八年に衆参両院で、「文字・活字文化振興法」の制定五周年にあたる今年を「国民読書年」と定めましたが、政府からの補助金は一切なく、全くの手弁当での活動でした。

「図書館は知のインフラであり、豊かさのパロメータだと思えます。財政上、非常に厳しい時代ではありますが、子供達が将来の夢や希望を育てられるよう、文字・活字文化を推進してゆければと思います。」

趣味は「読書三昧」とおっしゃる阿部市長。最後にお勧めの絵本を伺いました。紹介は2面にあります！

特大絵本を入れる手さげ袋の制作・ご寄贈ありがとうございました！
特大絵本を「存じですか？」
ふつうの絵本を読み聞かせ用に大きくなりました。中には1mを超える本もあります。小学校を始め、様々な場所でも読み聞かせが行われている今、この特大絵本の貸し出しが増え続けています。

でも…この大きさを持ち歩くのは大変！そんな時、本館で読み聞かせボランティアをして下さっている高野さんが「家に母の残した布がたくさんあるので」と素敵な手さげ袋を作ってくださいました。一緒にボランティアをされている白石さん、関村さんからも生地を提供いただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

また「おはなしの会MOMO」のメンバーの三谷さんも、ご自身が特大絵本をお借りになった時、とても苦労して帰った経験から、手さげ袋を縫って寄贈してくださいました。利用した方々からは「本当に助かります」という声をいただいております。これからも大切に使用していきたいと思っております。



多摩市立図書館 〒206-0033 多摩市落合2-29 (電話)042-373-7955 (FAX)042-375-9459
図書館ホームページアドレス <http://www.library.tama.tokyo.jp/>
携帯電話アドレス <http://www.library.tama.tokyo.jp/i/> 2010年10月 発行



↓色んなジャンルの本↓

『こころのチキンスープ』シリーズ ジャック・キャンフィールド マーク・ビクター・ハンセン編著
癒されたいときにこの本を開きます。少し出版が古いのですが、感動的なストーリーは、涙がとまらないものも。

『世界がわかる宗教社会学入門』 橋爪大三郎著
世界にある宗教が一冊にまとめられており、大変わかりやすく勉強になる本です。中学生くらいから読めると思います。ぜひ、おすすめします。

『奇界遺産』 佐藤健寿編著
タイトル通り、奇怪な世界遺産が目白押し。行きたくなること間違いなし!!

『シマダス 日本の島ガイド』日本離島センター編
日本中の島情報が満載。島は四方が海。外国に行かなくてもそこは海外!!! 『原色日本島図鑑』『日本の島』も。

『森と氷河と鯨 ワタリガラスの伝説を求めて』 星野道夫著
アラスカの大自然が、人間も自然の一部であることを教えてくれる本です。

『世界の野菜を旅する』 玉村豊男著
文化や気候が異なる国では、野菜の生態も料理法も大違い。「世界は広く多様だ」と、野菜をとおして教えてくれる。

『ドキュメント戦争広告代理店 情報操作とボスニア紛争』 高木徹著
とにかくおもしろかったです。戦争をあつかっているのに、「おもしろい」という言葉は不謹慎かもしれませんが…。

『小さな悪魔の背中の窪み』 竹内久美子著
人間も動物も生き残りをかけて必死。血液型や遺伝子のお話。「小さな悪魔」とは何者?

『今さら聞けないスキンケアの正解 肌ケア皮膚科医吉木伸子が伝授!』 吉木伸子著
肌の乾燥が気になる季節に、この一冊!

『オルセー印象派ノート』 辻仁成著
オルセー印象派の名画をモチーフに綴った小説と美術館とのコラボレーション。

『世界遺産屋久島 多様性の回廊』 水越武著
深呼吸したくなる深い自然に、とても心を惹かれます。



図書館職員がお薦めする『この1冊』!!

日々、膨大に出版されている書物の中から、どれが面白いのか、悩むことはありませんか? ここに紹介する本は、多摩市立図書館職員の「これは」というお薦めの本ばかりです。この読書週間に 1冊でも手に取っていただけたら、幸いです。

大人の方にもお薦め!

↓こどもの本↓

『飛ぶ教室』 エーリヒ・ケストナー著
ドイツの寄宿学校を舞台にした楽しく感動的な物語。永遠のクリスマス本です。

『グリックの冒険』 斎藤惇夫著
「ガンバの冒険」の原作『冒険者たち』のシリーズ第1作。ペットのシマリスのグリックが、故郷の「北の森」を目指す。

『おじいちゃんの口笛』 ウルフ・スタルク作
老人ホームに住む老人と少年との心温まる、でも、とっても切ない物語です。

『ケイゾウさんは四月がきらいです。』 市川宣子著
幼稚園のみんなはウサギのみみこをかわいがるけど、本当はみみこはとってもなまいき。ニワトリのケイゾウさんのリアルなつぶやきが効いています。

『めでたしめでたしからはじまる絵本』 デイヴィッド・ラロシェル文
「めでたしめでたし」から始まる世にもめずらしいおはなしです。

『ゆうかんなアイリーン』 ウィリアム・スタイク作
アイリーンの頑張りには拍手!

『はるにれ』 姉崎一馬写真
眺めているだけで、心洗われる一冊です。

『10代からの夢をかなえる 感性の磨き方』 佳川奈未著
大人が読んでいても前向きになれる本。10代の時にこういう本に出会っていたらと思いました。

『処女峰アンナプルナ 最初の8000m峰 登頂』 モーリス・エルゾーグ著
人類が初めて 8000m 峰に登頂した、当時フランス最強の登山隊(エルゾーグ、トレイ、レビュファ等)の苦闘の記録。

『ゴールは偶然の産物ではない FCバルセロナ流世界最強マネジメント』 フェラン・ソリアーノ著
あの最強バルサのマネジメント本! サッカーファン以外も必見です。

↓日本の小説・文学↓

『富士日記』 武田百合子著
たいそう魅力的な人物の日々雑記。食事買い物会話死風景日常。感傷はないのである。

『錦繡』 宮本輝著
人として生きる哀しみが、静かに心にしみる秋によみたい一冊です。

『シモネッタのドラゴン姫桜』 田丸公美子著
ガリ勉せずに東大に入った型破りな息子。ユニークな母が書いた痛快成長記録。

『職員会議に出た犬・クロ』 藤岡改造著
元祖セラピー犬? 今あなたの職場、学校に必要なのはクロかも…。

『塩狩峠』 三浦綾子著
2名の職員から推薦がありました。「十代のころ読んで、感動しました。」「号泣しました。」

『しずかな日々』 椰月美智子著
淡々と描かれる少年の姿・静かな時の流れにぐっ!と引き込まれてしまいます。

『こちら救命センター 病棟こぼれ話』 浜辺祐一著
医師・看護師・患者を通し、一度しかない人生「幸せ」に生きるとはどういうことなのか考えさせられる1冊です

『秋月記』 葉室麟著
負けてなお心が折れない秋月藩の男達の生き様。史実に基づいて書かれた作品です。

『孤高の人』 新田次郎著
新田次郎の山岳小説の代表傑作作品です。

『きらきらひかる』 江國香織著
なんといいますか…とにかく「酔える」本です。心がさびしいときに、おススメです。

『草原の風の詩』 佐和みずえ著
大草原のモンゴル・日露戦争・女性教師・学校建設 それに加えて、裏の使命 ロマンズもありなのです。

『チェーザレ・ボルジアあるいは優雅なる冷酷』 塩野七生著
イタリアに興味を持つきっかけになった本。同著者の『ルネサンスの女たち』も面白い。

『あたらしいあたりまえ。』 松浦弥太郎著
異色の「暮しの手帖」編集長が毎日をていねいに生きる秘訣を教えてください。

『ヴェネツィアの宿』 須賀敦子著
読んでいると須賀さんの見ている世界が眼前に広がっているような錯覚を覚えます。

『さよならドビュッシー』 中山七里著
火事で全身大やけどをおった 16 歳の少女がピアニストをめざす事により立ち直っていきます。殺人・いじめ等の中で、ピアノを弾く場面からは音が飛び出して来そうな臨場感にあふれています。

『李陵・山月記』 中島敦著
壮大な漢文調の文体に読むたびに圧倒されます。中国故事を題材にした崇高な物語も胸に迫ります。

『送り人の娘』 廣嶋玲子著
死んだ人の魂を黄泉に送る力を持つ「送り人」の少女。彼女に目を付けた権力者に狙われ、禁忌を侵した為黄泉の国からも追っ手がかかる。

↓海外の小説・文学↓

『エイラ 地上の旅人』シリーズ ジーン・アウル著
史上最古のヒロイン? 3万5千年前のクロマニオンの少女エイラの愛と冒険の物語!

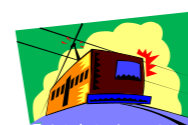
『比類なきジーヴス』シリーズ P. G. ウッドハウス著
頭の切れる執事と頭のゆるいご主人様のドタバタ。

『荒野へ』 ジョン・クラカワー著
映画を観て読みたくなった一冊。自然への畏怖を感じ謙虚な気持ちに…。

『車輪の下』 ヘルマン・ヘッセ著
いい学校へ行くだけが人生ですか? ヘッセの代表的自伝的小説。

『デミアン』 ヘルマン・ヘッセ著
高校の時に読んで、目の前がぱっと明るくなった。前向きに生きるようになった原点です。

『ラウィーニア』 アーシュラ・K. ル＝グウィン著
「ゲド戦記」だけじゃない! 大人にお勧めしたいル＝グウィン。



阿部市長のお薦め絵本: 『ちいさいケーブルカーのメーベル』 バージニア・リー・バートン作